

山口東京理科大学公立化調査検討
特別委員会記録

平成27年11月27日

【開催日】 平成27年11月27日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後2時20分～午後3時33分

【出席委員】

委員長	伊藤 實	副委員長	笹木 慶之
委員	石田 清廉	委員	大井 淳一朗
委員	河野 朋子	委員	中村 博行
委員	長谷川 知司	委員	山田 伸幸
委員	吉永 美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	尾山 信義	副議長	三浦 英統
傍聴議員	岡山 明	傍聴議員	下瀬 俊夫

【執行部】

市長	白井 博文	総務部長	中村 聡
成長戦略室長	大田 宏	成長戦略室副室長	大谷 剛士
成長戦略室	平田 崇		

【事務局出席者】

事務局長	古川 博三	主査兼議事係長	田尾 忠久
------	-------	---------	-------

【審査内容】

1 薬学部について

午後2時20分開会

伊藤實委員長 それでは山口東京理科大学公立化調査検討特別委員会を開催します。本日は報道3社、一般2名の傍聴がございますので許可をしたいと思います。なおまた撮影等もという要望がありましたので許可をしたいと思います。それでは委員会審査入る前に前回の委員会、10月30日の委員会におきまして11月1日の広報の市長コメントについてのそれぞれ委員からの意見が多く出されました。本日開催する前に私のほうで代表してその旨についての市長への要請をしたいと思います。まず一点目、薬学部の開設時期の延期についてです。このことにつきましては、その委員会のほうで大田室長のほうから話があったわけですが、これは10月30日は、東京理科大のこの委員会のほうから委員会を開催するというものでありましたが、そのついでのようにそこで説明をされたわけですが、このような東京理科大の薬学部の延期について、委員を初め正副議長にもそのことは報告がなされてなかったと。これはやはり議会軽視に十分値するのではないかというような意見がございました。次にその10月30日の委員会で大田室長のほうから市長から委員会へ伝えておいてほしいということで薬学部の建設地については現工学部のところにするということの説明がございました。このことについての理由等もなかったわけですが、後ほどまたその辺については聞きたいと思いますが、このようなすごく重要案件について市長自らが説明、そして報告をすべきであるのではないかというような意見でした。それと三点目、この広報に薬学部の開設時期が決まりましたというような明記がされております。そのことにつきましても、これまでも消防署の建設地そして給食センター等についてもですね、市長の方針、行政の方針が決まったということであって、これは議会の議決がなければ決定をしたことにはなりません。このことについても多くの市民に迷いといいますか、そのようなことが現状起こっております。やはりこういうことについてもですね、市長の方針はこのように考えていると。やはり後に議会の議決をされて決定をするということでございますので、この辺については十分留意をしていただきたいと思いますということでございます。以上三点について、委員全員が合意の下、市長のほうへ要請をしてほしいということでございましたので、冒頭そのことを伝えたいと思います。以上です。市長のほうから何かございますか。

白井市長 基本協定書でも平成29年4月以降となっています。基本協定はですね。ちょっと御覧になって確認されたら分かると思うんですが、平成29年4月1日とは書いておりません。平成29年4月以降ですから、以降のできるだけ早い時期にということで努力しておりました。後は参考にさせていただきます。

伊藤實委員長 それでは審査内容に入りたいと思いますが、本日は一応委員を代表して私のほうから三点についての質疑をしたいと思います。そうした中でそれぞれの委員のほうからまた質疑等があると思いますので、そのことについて市長に質問をしたいと思います。まず第一点目、先ほど申しました市の広報の中の文章の中で東京理科大学と市の考える東京理科大の今後の学校運営と申しますか、その辺の方針等について理科大とのかなりの開きがあるという表現がございました。このことについて説明を求めたいと思います。

白井市長 学校法人東京理科大学の薬学部は日本でもトップクラスです。だけじゃなくて学校法人東京理科大学そのものが理科系大学として世界に羽ばたこうとしています。そういう中であってその一翼のような位置付けで公立大学法人の薬学部を位置付ける。その意識改革がなかなかできないということを痛感しました。とにかく西日本一のすばらしい薬学部を作りたい、それ相当の先生を連れてきたい。そうすると私たちは内心、運営費交付金を超えるなあとという不安、いつもその不安におびえながらの交渉でした。運営費交付金の範囲内それと授業料、それしか収入はありません。その収入の範囲内で薬学部を運営してほしいと。その大きいギャップです。

伊藤實委員長 そこでいいですか、そしたら。今、市長のほうから東京理科大学との薬学部についての大きな差異という部分について、その辺の目指すところよっての資金的な面が理由というような説明があったと思いますが、委員からの質疑を受けたいと思います。

山田伸幸委員 具体的に私たちではその金額というのは全然分からないのですが、その開きというのはどの程度あるのか。それはもう分かっているのでしょうか。

白井市長 分かりません。

伊藤實委員長 分からない。ほかにありますか。

河野朋子委員 薬学部を作ることによって公立化ということに対しての理由付けという最初昨年そういった話があったわけですが、そもそもその薬学部を作るという話が持ち上がって、公立化していこうというような構想ができた時点で今のようなそういうギャップというか、その辺りは感じていらっしやらなかったのか。ここにきて急にそういう話が出てきたのかどうか、お聞きいたします。

白井市長 学校法人東京理科大学の薬学部の全国の大学の中での位置付けと申しますか、その辺の評価について調査が足りない、評価が足りない、認識が足りないということだったと思います。向こうは特に最近、大村先生、ノーベル賞をもらわれましたけども学校法人東京理科大学の大学院卒業生です。第二の候補、ノーベル賞の受賞者、第二の候補、第三の候補まで居るといわれている大学です。それで、姉妹校の関係を結んで、そして今後とも協力するからと前の中根理事長のほうから申出があつて非常に好意的な姿勢に非常に感謝し、かつ、これならかつて山口県下の他の市でもそこにある大学に薬学部を設置したいということで挑戦したことがあるそうですけども、文部科学省の中にある教授の顔ぶれについての審議会、そこをパスすることができなくて結局実現しなかったというふうに聞いています。それぞれの市長から、うちは残念だったけど山陽小野田市はひとつ頑張ってくださいと言われております。そういう学校法人東京理科大学の薬学部の薬学部長等を務めた人が責任を持って審議会をパスできる、全部で教員は約54人くらいになるそうですけれども、そのうち文部科学省で審査される対象は教授の30名だそうです。その30名は必ずそろえますということですから、すっかり安心してもう人的、物的な準備は必要ですが、人的準備は向こうで全部やっていただけると。ちょっとそこ甘え過ぎたなというふうな反省があります。

伊藤實委員長 はい、ほかに。ないですか、ほかに。

山田伸幸委員 以前市長が言われていた中で、議決を早くしていただいてどんどんその辺の作業を進めて行きたいというような答弁があったと思うんですが、そのときの答弁に比べて随分今の表現がですね、後退しているというか勢いが違うなどいうのをすごく感じるんですが、その辺の何か違いというのはあるんでしょうか。

白井市長 勢いの違いを感じると、そのとおりです。そのとおりです。生みの苦しみというのは正にこういうものだなど。そろそろ残りそう長くない期間になってきて、市長としても今まで不足していた部分、市内全域にわたって少し手を広げることができんじゃないかと。多少とも不十分だった点について補充していこうというふうな考えだった矢先に飛び込んできた、まあ言ってみれば、見方を変えれば非常に大きいチャンスを手陽小野田市はもらったとも言えますが、また別な見方をすればとんでもない厄介な大変な問題を持ち込んでくれたと、こういうふうな見方もできなくはありません。まだ生みの苦しみ続いています。ですから市長は、元気がなったりちょっと弱ったり、どうしてだろう。体調が悪いわけではありません。やはりそれだけ非常に重い荷物を今担いでいると、頭の上に載せているとそういうふうな感じですか。

伊藤實委員長 今、市長のコメントがあったように、もちろん市長だけの責任でもなくて、今回の公立化についてはですね議会も議決をしています。その責任は当然あると思いますので、先ほど言いましたようにやはり車の両輪というのであればお互いその辺情報交換をしながらですね、より良いもの、やはりその判断をちゃんとできるような委員会運営を我々もしたいと思いますのでその辺については十分承知をしていただきたいというふうに思います。

白井市長 ある特定の事案がですね、ケースがある程度まとまった形でこれについてどう考えたらいいでしょうかというそういうものであればですね、議会に投げ掛けたいんです。ところが今回のこの薬学部開設の問題については当初工学部単独で公立化し、スタートするって点については、すうっと行ったんですけども、非

常に難しい問題が、言ってみればちょっと大げさな言い方ですが、日々刻々生じているというふうなことで、市民へも、どの段階で説明したらいいのか。それが次の日は、また変わっているというふうなことでは責任のある説明と、そして質問を受けた後の回答とといいますか、それが十分できない状態でずっとこう延びてきているんです。そんなところなんですね。ただ、展望としては半分自分の、あるいは市民の皆さんの期待に沿えない部分もありましたけど、例えば、どこにこの薬学部を開設するのかというそのまちづくりにもっと役立てたいと思ったそのこと自体果たせなかったという無念さ、残念さはあるんですが、とりあえずワンステップということでまちの活性化に役立つだろうと。必ず後から振り返って、それも5年、10年、15年、20年先を将来ですね、過去振り返ってみて、やっぱり呼んでおいて良かったと、あの時引き受けておいて良かったと私たちの子供や孫たちがそんなふうに見てくれるんじゃないかというふうに思っております。

伊藤實委員長 今の市長の発言の中で、今、薬学部の建設場所なんか、あたかも決まったようなことを言われたんですが、そのことはまた後ほど質疑がございますので、その際にまず理由を聞いた上でしたいと思っております。

山田伸幸委員 最初のお答えの中で運営費交付金の範囲内ということで開きがあったということなんですが、これは現在のところどういう位置にあるのでしょうか。それはもう解決したのでしょうか。

白井市長 運営費交付金と学生の納める授業料、それ以外はありません。ですからその範囲で予算を組んでもらいます。しかし各教授、あるいは准教授の皆さん方、研究者の皆さん方夢がありますから、かつ、また人が変われば当然その研究テーマも変わってきます。ということで膨らむと際限なく膨らんでいくという危険があります。ですから、この公立大学を運営するために法律で規定されている二つの審議会、一つは経営審議会、もう一つは教育研究審議会、その経営審議会のほうで予算を審議しますから、そこが二つの審議会共にそうですが、しっかりすれば、その運営費交付金プラス学生の納める授業料の範囲で各教授、准教授、その他の研究者の皆さんの予算要求についてもこれが限界ですとこれ以

上は審議会でも認めてもらえませんという形で納得してもらえないんじゃないかというふうに思っています。

伊藤實委員長 今回の件ですが、市長は、もう薬学部が決まったようなことを言われているんですが、まだ薬学部の段階にまだ行ってないわけですから、そのことについてはまた後日したいと思います。もちろん議会の議決、この薬学部の定款変更があって初めて薬学部の新設ができるわけですから、順序がもう違ってますんで、そうじゃないと経営審議会うんぬんにも行かないわけですよ。だからそこを、順序を履き違えると、また違いますんで、我々の委員会のほうについてもその前にやはりそういう部分、収支計画も当然今までと違った部分が出てこようし、これについては、また後日、一つ一つ集中的に、集中審議をしたいと思いますんでよろしくお願いします。本日は、そういった点で是非ともちょっと聞いておきたいこと等をまず質疑をしていただいて、そして委員からの後日の審査に当たっての資料請求等もしたいと思いますので、それに関する質疑を集中的にお願いしたいと思います。ほかに今の東京理科大との開きについての質疑はないでしょうか。

河野朋子委員 一番気になるのが薬学部を開設した、今後していくときに本当に教授陣がきちんとそろうのかどうかということが、すごく鍵になってくると思うんですけど、市長も自ら言われていましたけど、当初はバックアップがあって、必ずそれは問題ないということを、私たちもその説明を受けて、そのように受け止めていたんですけど、その辺りが難しいということが、今、分かったんですけど、先日の大田室長からの説明によれば、市長と塚本氏との確認事項で薬学部の建設については、市の予算内で、市の予算として市の入札をして行うということと、それから市の身の丈にあったものを造るということ、それから研究費はほかの公立大学の薬学部と大体足並みをそろえるというようなことで同意しましたという報告があったんですけど、じゃあそういった同意の下で、本当にその教授陣が当初言われていたすばらしい教授陣がそろうのかどうか、そこが一番気になる場所なんですけど、その辺りの見込みはどうなんでしょうか。

白井市長 学校法人東京理科大学は最近理事長が交代されました。新理事長にも2回お会いしました。昨年12月末の姉妹校関係の確認。そして山口東京理科大学が市立大学の一翼として、公立大学法人化することについての全面的な協力、それは確認しております。それを確認することとは、施設面は、市のほうでお願いします。人的な面は、すなわち教授、准教授等の教員をそろえるということとは、学校法人東京理科大学が責任を持ってしますという趣旨です。その点は今も変わっておりません。ただ、その施設の規模等について、かなりレベルの高いものを要求されています。そうだとすると、運営費交付金や授業料だけではまかなえないと。私は、一番最初の基本協定締結のときから、大学を招くことによって、あるいは公立大学を持つことによって、市民の財政的な負担が増えないこと、これが第一の条件であるということ肝に銘じておりますから、その点について、工学部は現在先生がいらっしゃって、学生一人当たり百何十万という運営費交付金が決まっております。毎年少しずつ減るようですけども、とりあえず現在決まっています。それと国立大学の学生並みの授業料が入ってくると。もうこの20年の山口東京理科大学のこれまでの経歴があります。その過去を振り返って、工学部単独の大学でしたけれども、どの程度の研究費というものが必要なのか、そうした予算等、この予算というのも全部本学の学校法人東京理科大学のほうで組むんですね。こちらは要求を出して、向こうで組まれて、だからこちらは、給料の日が来ると、こちらの山口東京理科大学の中に、会計係があるわけではなくて、東京の学校法人東京理科大学の会計課から先生や職員の口座に直接振り込まれてくるというふうな、そんな本当に分校のような存在の大学だったわけですね。そうであってもやはり一応教授、助教授、准教授と皆さんそろっていらっしゃって、学者でいらっしゃいますから、したがってそれなりの研究テーマというものをそれぞれ持っていらっしゃる。その研究テーマごとに、どの程度の予算が出て、それでまあまあということで我慢しながら過ごしてこられたのかということ、ある程度聞いたり、調査したりしましたけれども、その工

学部の延長として来年の4月以降公立大学法人ができるわけですが、運営費交付金、それと授業料で十分やっていける形でスタートはできるんだということを繰り返し確認しております。問題はその後増部といいますか、増設といいますか、できる薬学部について全く新しい経験ということもあって、どんなふうな事態になるのかということについて期待と不安、これがずっと入り混じる状態で過ぎてきたというのが真相です。

伊藤實委員長 それでは今の開きについてはいいですか。また後日この辺については、資料等請求した中で審議をしたいと思います。それでは次に2点目、開設延期の理由ということです。このことについてお願いします。

白井市長 これまでも申し上げましたけれども、一応希望としては来年、希望じゃなくて来年の4月に公立大学法人を市立で立ち上げるということは、もう確定したものとして取り組んできました。そしてこれは、定款等について議決いただきましたけれども、予定どおりスタートできるというふうに考えております。問題はその後のことについて、平成29年4月以降、薬学部増設というふうに基本協定書にはなっていると思います。できれば1年後にというふうに考えましたけれども、先ほど述べたような事情で、ほぼ固まってきたというふうに考えておりますが、もう1年先の平成30年4月1日に、ならざるを得なかったというふうなことです。

伊藤實委員長 というと、今理由というのは先ほどからある教授の30名という問題と、その辺がやはり大きいということで理解していいんでしょうか。

白井市長 30名は、もうすぐにもそろうんです。

伊藤實委員長 大丈夫ですか。

白井市長 そうです。

伊藤實委員長 教授はですね。

白井市長 そうです。しかし、その方々一人一人が、それなりの研究テーマを持っていらっしゃる。それが一時的なものか、あるいは中期的なものか、一生を掛けてというものか、それはよく分かりません。そのテーマに応じて、研究室の大きさとか、あるいは資機材ですね。研究資機材。これについて大変な額のものから少額で済むものまで様々なんです。ですから研究テーマに応じて必要なものは、全部整備いたしますというふうなことになる、運営費交付金などでは到底足りない。ですからやはり運営費交付金の総額を示し、かつ、諸経費を示し、また一定の基金を積んで校舎、あるいは研究室、その他学校運営の上で整備する必要があるもの、それを基金化する必要もあります。そんなものを除いた後、どのぐらい余るかということと、その研究費に充てる予算の総額とが決まってくるということになるかと思います。ですから、これからもっと近づけばですね、研究意欲の物すごく旺盛な方、やはり大学の外の企業、あるいは国ですね、それから他の大学とか、あるいは地元の団体でもいいんですけれども、そういうところと提携して、研究に必要な予算の面についても、御本人の努力にも期待したいというふうに考えています。

伊藤實委員長 よろしいですか。今の話を聞くと資金的というか、教授は大丈夫だと言われるんですが、やはり志の大きな教授に来ていただきたいと。しかしながら、そこには、研究の環境整備というところでお金が掛かるということですが、先ほどの市長の答弁でいきますとその辺について幾らかという質問には分からないということだったので、少し矛盾があると思いますし、この辺についてもまた後日、やは

りしっかりと資料請求もしながら、どういうふうにするのかというところと思います。
それでは今、開設理由についてはほかにはないですか。いいですか。

大井淳一郎委員 今、市長がおっしゃったようにですね、研究環境ということをおっしゃりました。私も先日東京理科大学に行ってみまして、そこでお話を聞くと、一番大切なのは、報酬よりも研究環境だということをおっしゃりました。ノーベル賞の受賞者が出るくらいの大学ですので、相当の研究環境という要求があるのは私も一定の理解があるんですけども、その辺りの研究環境を、だから何が言いたいかというと、当然運営費交付金及び授業料の範囲内でやっていかななくてはいけないという思い、これはベースには当然なくてはいけないんですけども、片や要求があると。ですからその要求に応えるためには、どうしていくかということに立ち返ってほしい。そうすると当然外部から集めていかなきゃいけない。企業からの寄付金も必要であろう。今、市長がおっしゃったように関係機関との連携も必要であろうということで、僕は何が心配かと言うと、その辺りの動きがちょっと今まだ見えていないんですよ。特に議長とすぐにでも企業を回るとおっしゃっていたと僕も理解をしているので、それも含めた外部への動きというのを早急にやっていただきたいと思うんですが、その辺りお答えいただけますでしょうか。

白井市長 外部への動きの中で、一番大きいのが、やはり寄附集めと考えていますけれども、しかし市役所内部で決めただけで、まだ肝心の県知事の認可も下りない、建設校舎、研究室の建設工事も始まっていない、というふうなそんな状態で企業を回って、果たしてどの程度信用してもらえるか。ええ、企画して努力はしたんですが、結果的には無理でしたというふうな返事はできません。ですから、ある程度進むのを私としても、心待ちにしております。ただ、いろいろ考えておりますのは、やはり認可が下りたら、認可は近く下りるという話聞いておりますので、認可が下りたらこの市内に、結構な企業、いろいろあります、そこは是非、市議

会議長と二人で、あるいは希望されればそのほかの方も一緒に、少なくとも二人で、公立大学法人ができますと、理科系の大学で投資は高額でスタートしますが、企業に必要な人材、これを十分育てますから、どうぞ将来を楽しみにして、後日を楽しみにしていただきたいというふうな、そういう挨拶回りだけは、できれば認可が出た直後、年内には済ませたい、また議長さんには申出をしておりますので、日程調整も当然必要ですけれども、ただ、この市内だけでしたら恐らく1週間か10日、午後二、三時間ずつ使えばですね、一応回れるんじゃないかという気がします。その後、前学校法人の理事長と教授を10年間務められて、後半からこちらの山口東京理科大学の学長を兼ねていらっしゃる方、その方については、今の理事長の前理事長からこの方は寄附集めの名人だから、ということをおっしゃっておりまして、御本人を前にしてですね、とんでもないというふうな感じでもなかったものですから、私は寄附集めの経験というのは非常に申し訳ないんですけれども、余りないものですから、まずその先生と一緒に全国を回りたい。そしてある程度教えていただければ、その要領を私もつかんで自分なりに努力できると。まあそんなふうなことで、まだ形が見えないかもしれませんが、寄附集めの構想も山口県下に薬学部、薬学部関係ですと、本社、それから工場合わせて20社、20ほど、20か所あります。全国に二百何十製薬会社があるそうですが、約二百は東京に集中しているというふうに聞いております。ですから、一定の時期、一定の段階が来たら、もう集中的に取り組むことができるんじゃないかというふうな気がしています。

大井淳一郎委員 そのように当然していただきたいのですが、30年に延びたということで、やっぱり企業も大丈夫なんだろうかという今、ちょっと心配があります。それを払拭させる意味でもですね、この延期は、前向きな延期なんだという形です。説明に回る、早急に回りたいということと、ちょっと気になったのは認可が下りたらと言われたんですが、私が前この委員会で聞いたら、11月末に認可

の見込みだというんですが、認可はまだ下りていないんですか。これお答えいただけますか。

白井市長 まだ認可は下りておりません。昨日午後から、来年度の県予算の編成に対して、基礎自治体の市長、町長各人から希望を聞きたいと、要望を聞きたいというふうなことで、山陽小野田市の番が回ってきまして、その話を知事直接ではありませんが、案内してくれた職員の方からですけれども、ごくごくそう遠くない時期にというふうな感じがしております。ただちょっと厄介な話ですね・・・。

伊藤實委員長 それは議案で今回出ています。

白井市長 そうなんです。ちょっとそういうですね、本当にあの粗末な訂正などが出てくるものですからね、また議決を待つということになりますと、場合によれば、12月の20日前後ですよ、ええ。もっとやっぱり、あの、大きい仕事をするときには、足元の一步ずつが実は非常に大切なので、一步ずつ手抜きするとですね、一步ずつのところを手抜きすると、大きいところで跳ね返ってくるということになるわけですね。ただ少なくとも、認可は出ないと、出なくてもいいと、あの毎週月曜日の朝9時から1時間ほど、部長クラス、それから水道局長、それから教育長、さらには病院局長等の部長クラスの部間、あいだですね、部間連絡調整会議っていうのもって、そこでその話を出したときに、認可とは関係ないから、とにかくもう動いたらどうかという強い声を出す人も何人かいらっしゃるんですが、私はちょっと固いのかもしれないんですけれども、やっぱりきちんと、きちんと法的な効力を持つ、そうした法人格の立ち上げ、それが公的に認められたと、あとはもう登記だけですと。一応登記は、来年の4月1日の予定ですがけれども、あとは登記だけですよというふうな段階まで行かないとですね、挨拶についてもちよつと・・・。まあ議長さんがですね、そんな難しいこと言わずに市長、一緒に行こうと

引っ張ってくだされば付いていきますけれども、私のほうからですね、議長さんに声を掛けるといのはちょっと形ができないと、形が整わないとちょっと言いにくいです。

伊藤實委員長 今の件はですね、今度議案で出ておりますんで、そのことについてはまたそのときにですね、委員会で審査をしますが、今、大井委員からあったように前回の、前々回の委員会ですか、一応10月の末に認可が下りる予定だったんですよね、それが11月の末になったと、その理由は、ほかの大学と一緒に足並みをそろえて認可を出したいという文科省の強い思いがあって、1か月ほど延びましたと。こちらの提出した書類等に瑕疵^{かし}はなかったという説明がありました。で、今回また議案が出ましたんで、このことについては今度の委員会でしっかりと審議をしたいというふうに思います。それで今延期の理由の件、いいですかね。今、大井委員が言われたところ、すごく大事なところだと思います。先ほどの理大との開き、やはり十分にね、その数値っていうか、それもまだはじいてない。要は途方もない、交付金とかでは賄えられないというね、やはりこういうのはどんぶり勘定じゃいけないと思うんですよ。本当にどうなのかと、そうした中を、それを100としたときに、市の今の交付税との開きはどうあってどうなのかと、やはり交渉ごとの中にはね、そこの10のうちの10ができなくても、九、八で妥協するとか、そうでないと、10のうちの5合目にも行かないんだったら、先ほど市長が言われた、先生は大丈夫だと言っても、私も先日東京理科大のほうに視察に行った際には、報酬よりは研究面の環境が第一、最優先だということをはっきり言われました。ということは、やはりそういうところを、どこの程度まででして、そういう優秀な先生に来ていただくかっていうところが、やはり今後の薬学部設置に向けて大きく左右すると思いますんで、この辺については今後ですね、また日を改めて集中審議をしたいと思いますんで、それまでには明解な、それなりの数値等を示していただきたいというふうに思います。

白井市長 ちょっと済みません。誤解があるんじゃないかっていう感じがしました。と言いますのは、それぞれの先生が一つのテーマとは限らないんです。幾つかのテーマを持って、そして順次、その教授に付いている准教授とか、あるいは講師とか助教とかそんなのを手伝わせながら、いろいろこう場面を分けながらですね、複数のテーマを追っていくと。あるいは、もうこの一つのテーマで自分の一生をかけるんだというふうな、そんなものとかですね、さまざまなものがありますから、したがって、とりあえず研究予算あるいは研究費どのぐらい掛かりますかって、その方に聞いてもその方自身やっぱり答えることができないと思うんです。この研究テーマであればこのぐらいは掛かるだろうし、合わせてこれもやればこのぐらい掛かるだろうし、それはもう環境次第です。ですから環境のほうで運営費交付金プラス授業料というふうな財政的にはその予算、それが申し訳ないけれども研究教育環境というふうに考えていただいて、その中でお互いにやりくりしながら予算を立てる以外にありませんということ、やはり審議会で繰り返していただく以外にないというふうに思います。

伊藤實委員長 はい、ほかに。なければ次に行きます。次は、薬学部校舎建設の理由ということ。このことについてもすごく大きな問題を大田室長が市長から伝えておけということで、代弁をされたわけです。このような重要案件についてね、やはり市長自らの方針の理由ですよね、その辺について述べていただきたいと思えます。

白井市長 結論的なことはある程度は聞いてらっしゃると思うんですが、今から御説明しますが、本当の消去法です。地図を広げて見ても、山陽小野田市の真ん中は厚狭駅です。厚狭の街です。かつ、また、あそこは新幹線の駅が在り、山陽線、美祿線が交差してます。このまちの中心はどこかと、まちづくりは、まず第一

にどこからと考えるべきか、あるいはまちづくりの中で、特別大きい事業はと、市内の特定の場所を結び付けるとすれば、どこと考えるのが自然かということから行けば、やっぱり厚狭だと思うんです。だからこそ去年の暮れに基本協定を結んだときは、まだ白紙で、いろんな可能性があると思っていました。その当時、山口東京理科大学の学長は、塚本先生でした。2月の定年までいらっしゃいました。2月の定年後も学校法人東京理科大学のほうにも、またこちらの大学のほうにもちょくちょく顔を出されていますが、理事長を10年されました。10年された間に学校法人東京理科大学の薬学部を千葉県野田市に造られました。すばらしいキャンパス。大井委員のお話ですと視察に行かれたということで。（「葛飾のほうです」と呼ぶ者あり）葛飾のほうも新しくできたんですよね。（「そうそう」と呼ぶ者あり）あれもすばらしいキャンパスです。そうした手掛けられた経験からですね、いろんな業者をよく知ってらっしゃると。かつ、また、よく働く職員もよく知ってらっしゃるということで、こちら側に連れてこられて、厚狭駅南部地区、土地区画整理事業の対象地、あそこは20ヘクタールちょっとありますから、この中で何とかできないかと。そのできないかというのは、後日追加する予定の学部だけなのか、全部根こそぎ向こうに移したいのか、そこまでは確認しておりませんが、しかし、学長としての在職中、西部石油に近い現在のあそこの大学の場所については、もう少し街中に出れんものですかねと私にもしょっちゅう投げ掛けておられましたから、ですから恐らく調査に行かれたときは、言ってみれば、新しく立ち上がる公立大学法人全部についてを念頭に置きながらの調査だったというふうに思います。数日調査されたんですが、呼ばれたその道のプロの職員が、どうもここではうまく絵が描けませんというふうなことで、諦められたと。その職員がまずですね。実は全部市の所有地だと考えてらっしゃったというのが一つあります。それからと同時にいわゆる地権者ですね、民有地が入り組んでるということを全然御存じなかったということもあります。実際にあそこに行って、そうした御自分のかつての部下を使って、あるいは業者を使って、いろいろ

こう調査をして、どうもここは公立大学法人全てをとというのはもとより、後日追加する予定のその学部一つでさえもやはり無理だと、塚本先生自身が判断されて、私にその旨の報告がありました。御自分では、実はその厚狭駅南部地区を調査されるのも、市長の頭越しです。先生余り勝手な動きしないでくださいとは言いましたが、頭越しで。さらには地元出身の国会議員のところにも交渉に行かれたそうです。その方から私宛てに電話がありました、市役所に。お互いに相談済みでこういうことをやってるのかというふうな照会がありましたけれども、それは先生お一人が、独自のお考えで公立大学法人ができれば何とかあの方向でということで、いろいろ模索されてると。その行動の一つだと思いますというふうな返事をしました。その塚本先生があそこを諦めた後、今のところは全部学校法人東京理科大学の所有地ですから、所有地であり、かつ、文部科学省の基準からすると、もう一つや二つ学部を追加しても十分なスペースがあると言われてる学校用地です。そういうところから隣のグラウンド、これは宇部市の所有地ですけれども、グラウンドの一部も利用しながら薬学部という、追加する学部の校舎、研究室をあそこにどうだろうというふうに。あの方は、こういうこと申し上げるのは恐縮ですが、非常に優秀な方です。頭のさえがすごくいい方です。だから頭をぱっと切り替えられたんだと思うんです。場所はあそこだと。そういう感じで今度は私にも、市長室のほうにいらっしやって、そういう話を急にされるもんですから、駅南の話はどうなりましたかというふうなことをこちらから聞くといった状態で、そんなことで半ば引っ張られる形で、しかしいろいろその後メリット、デメリットその他いろんな角度でこう、私たちも内部で検討しましたがけれども、やっぱり一番財政的な負担が少なく、またその他メリット、デメリットいろいろ比較するとしますと、今の工学部のある、あその学校用地を使い、かつ、宇部市の引き続き御厚意にも甘えながら、薬学部を増設し、公立大学法人として経営するというのが一番堅実ではないかと。夢そのものは、少し今のところは沿われておりますけれども、しかし、やがて順調にいく、そうした段階になれば、しかるべき新しい

地を求めてと。そこに移転するという事だあって当然あり得ることだということを考えつつ、今のところはやむを得ないかなというふうに思っております。

山田伸幸委員 今の説明からすると、その塚本氏が今後の運営の中心になるというふうに判断してよろしいのでしょうか。

白井市長 今の質問は、役員構成のお話だと思います。この公立大学法人の役員については、実は非常に申し訳ないんですけども、私の頭の中で、二転、三転しました。まず最初は、市は大学経営の経験がありません。ですからその道のプロの人及びその背景にきちんとした組織のある、そこをお願いせざるを得ないんじゃないかと。当初はそうでした。基本協定を結んだ当初はそうでした。しかし、よくよく考えてみますとやはり公立大学法人ですから、最後は市立、すなわち山陽小野田市が責任を負わざるを得ないと。予算的に厳しく、すなわち運営費交付金プラス授業料の範囲しか歳入はありませんよと。それを徹底し、徹底し、きちんとやれば、住民の経済的負担は一切起こりませんが、そうならない心配もあります。ですからトップは、やっぱり市役所の中から出さなくちゃいけないかなと思いました。その時点で先ほどの部長の集まる会議で、市長の案という形で投げ掛けました。皆さんに私のほうから語りました。その後様々な反響がありました。その中には非常なもったもな面もあるし、かつ、また、やはり法人成立後とといいますか、開学直後とといいますか、開学直後のしばらくは必ずしも建前どおり貫こうとしてもそこは無理が出てくる恐れもありますよという、そういう助言もあつたりしました。その辺り学校法人東京理科大学の意見も聞いたほうがいいんじゃないかというふうなことがあって、先ほどのいろんな点で支援して力になってくださった国会議員と学校法人東京理科大学の理事長とで一度話し合ってみよう。先方がどんなふうなことを話し合っているのか、その辺のことについて市のほうも弾力的な対応を検討したほうがいいですよという助言をもらいました。で、

日が決まって、夕方会う予定だったんですけれども、それに先立って学校法人東京理科大学で理事会、これ予定どおりの理事会が開かれて、議案について全部済んだその直後に緊急動議が出たそうです。で、前の中根理事長、ま、言ってみれば解任というふうなことになって、いろいろ助言、支援して下さった国会議員と中根理事長との夜の懇談が飛びました。で、そのままになったんです。ですからあとはやはり私のほうで皆さんにも意見を聴きながらということで、先ほどの部間連絡調整会議、部長の集まるその会議で、その後の皆さん方の反応その他、かなり厳しい意見も書面で、あるいは口頭でいろいろありました。私はそれを、この10年で初めて体験しました。うれしかったです。相手が市長であってもやっぱり非常に重要な局面においては、やはり部長として自分の意見を伝える必要があると。こういうふうな考えを持った職員が何名か要るということを知ったら、知って非常にうれしく思いました。非常に厳しいその意見をこう聴いていると、あるいは書面を読んでいますとね、なるほどなと思える面もありました。市長の思いは分かるけれども、とりあえず円滑にスタートし、軌道に乗ることが大切だと。で、私もいろいろ考えた末、あの助言し、相談に乗ってくれ、意見もくださる方ははるかに遠くに、東京にいらっしゃるものですから、その人の、理事長との対談が飛んでしまったものですから、あとはこちらで考えなくちゃいけないということで、最初の市長案を訂正した形で、次の市長案というのを出しました。ところがその第2の市長案については、多少不満だった部長も居るとは思いますが、第1回目の市長案に対する反発のような劇的なもの、非常に激しいもの、そういうものはありませんでした。現在のところは、その第2の市長案がずっと推移してきておりますけれども、まず私としては、認可の前に知事のヒアリングを受けるんじゃないかと。そのときにそこで述べれば当然公になるだろうというふうに思っておりましたが、そのヒアリングがいつかということもはっきりしませんし、ヒアリングがないという話も県からこう聞いて伝わってきますので、そうするとやはり知事の認可が出た後、4月1日の登記の間に決めておく必要があるというふうに思いま

した。でも認可をもらったら一応公にしようというふうに考えております。

伊藤實委員長 ということです。はい、もう認可後ということで。

大井淳一郎委員 今、市長案ということで、厚狭駅の南と2として現地ということが出ましたが、私がちょっと耳にしたというか、この委員会でも出てたのは、厚狭高の南校舎、こういうのがあったと思うんですが、これはもう全然最初から案になくて、今言われた1案と2案のメリット、デメリットその他もろもろの事情を考慮した中で、今の第2案に落ち着いたということで理解してよろしいのでしょうか。

白井市長 そこも私にとっては、魅力的な第一は何と言っても駅南ですけれども、2番目はそこを考えました。ですから基本協定を結ぶ前の段階で、私個人で県の教育委員会に照会しました。もともと電話だったものですから。で、返事は非常に素っ気なくて、今のところ学校用地として使う予定に変更はありませんということでした。しかし、今日私がこの委員会に呼ばれるということを知ったものですから、地元選出の県会議員を通じて、もう一度県の教育委員会の公式見解を聞いてもらいました。それは昨日のことです。それによりますと、厚狭高の南校舎については、現在定時制として利用されていると。本年3月に策定した平成27年度から平成36年度を計画期間とする県立高校将来構想の中でも定時制という位置付けがなされていて、この現状が変更になる利用計画については、今のところ全く考えておりませんと。当然のこととして当面は現状での使用、継続を考えておりますと。さらに将来、この利用計画の変更があった場合、これはあくまでも県立高校将来構想に係る計画変更の可能性ということなので、これが行政財産としての用途変更だとか、財産処分などの展開につながっていくと、少なくとも相当期間の年月が必要になってくるのではないかと。そういうふうな教育委員会の、これが公式見解でしたというものを地元選出の県会議員から、私のほうに

送ってきました。それで実は大井委員がおっしゃるような厚狭高の南校舎が使えればですね、駅前商店街が復活するんじゃないかという期待もあったんです。ええ。そしてあそこはすっかり寂しくなりましたから。で、鴨橋を渡ってもらってですね、距離的に決して遠くありませんのでね、ただあそこの今の南校舎の用地については、今申し上げたようなことで、これは去年の基本協定を結ぶ前の段階で、私の念頭からは一応消えました。しかし今日確認のために、昨日ですね、お願いしたということです。

伊藤實委員長 今、大井委員からの質問で、市長からそのような答弁がありました。が、実は前回の委員会でも、我々のほうでも、この建設地についてはですね、先日示された今の工学部のところ、それと新幹線の駅南、それと南校舎の三つを候補地と検討しようということで、合意しておりますので、両方がですね、それについて今の教育委員会の答弁があったと思うんですが、実際にはこの委員会でもですね、この薬学部についてはですね、市独自で考えるべき案件ではないというふうに認識をしています。当然県、国も巻き込んでしないとですね、市単独でできるような事業ではないという認識がある中で、地方創生の国の政策に、どうのっとっていくのかということも含めてですね、委員会としては今、市長の答弁はありましたが、引き続き三つについては、徹底的に調査をして、委員会としてのまた考えも、また協議をしていきたいというふうに考えております。もちろんその建設場所の前に、薬学部うんぬんという問題がまずありますし、その前に当面のですね、工学部の認可を早くもらうのが大優先ですので、このことについては今度の8日だったかな、理科大の議案に大きく関わってきますので、まず一步一步ね、足下をまず固めていくという方向にしないとですね、先を見るのを大事なんです。ソフト面でのいろいろ構想はね、財政的な負担はないんで考えられたらいいと思いますので、それは執行部も委員会としても議会側からの提案もすることもあるかもしれません。そういうことも含めてですね、やはりこの問題

は、このまちを大きく左右する問題なんで、やはりお互いが情報共有しながら、しっかりと熟議をしながら、進めていきたいと思いますんで、今後また市長にもです、この委員会にも出席を願うこともあると思います。やはりそういうような議論を積み重ねることが、大変必要だというふうに認識をしておりますので、今後ともそれについてはですね、一緒にこのまちづくりに向けてですね、傾注したいと思っておりますのでよろしくお願いをしたいと思います。

長谷川知司委員 ちょっと異議があります。前回の会議でその場所について駅南それから南校舎跡地、それから現在の今の大学のところというように、その3つに絞ってこの委員会で考えるというのを決めたという覚えが、私ちょっとないんですが、皆さん、そのように理解されてるかどうか確認してください。

伊藤實委員長 今、長谷川委員から意見がありましたが、一応この三つを候補地という話がありました。その際に長谷川委員からこの委員会の目的等についての指摘がありましたので、このことについてまた、今後この委員会は公立化というところではあります、薬学部もセットという中で、いろいろ建設用地とかのことが出てまいりましたので、このことについても協議をします。今後はまた認可が下りればですね、今後公立化の問題と同時に薬学部をどうするのかという大きな問題にも委員会として議論を進めなければいけないと思いますんで、その辺についてはこの委員会も含めて、また議運も含めてですね、いろいろと協議をしてどのように進めるかをしたいというふうに考えます。今の3点については、私の認識ではそのように一応三つの候補が挙げたということは確認をしております。

長谷川知司委員 ですからそれを皆さんに聞いてくださいと言ってるんです。確認してくださいと。

伊藤實委員長 皆さんどうですか。そういうふうに……。

山田伸幸委員 私は先ほど伊藤委員長から言われたときに、そうだったかなというのを疑問を持って、今、長谷川委員から言われてですね、やはりそういった確認というのは、されてなかったように私としては認識してたんですが。

石田清廉委員 私の記録の中ではね、本日の会議において、市長メッセージの様々な建設用地の発表についての確認をすると同時に、今後確認をした上で、他の用地についても調査、検討をしていかなきゃいけないという話がありました。記録は書いております。間違いございません。(「3か所」と呼ぶ者あり)3か所というのが、その他の用地という言い方にしましたけど、今の南とか、そういうことも含めて調査しなきゃいけないという話がありました。

伊藤實委員長 それが出て、それを一応確認して皆さんもそういうような意向だったと思います。

白井市長 済みません。ちょっと割り込む形で申し訳ないんですけども、来年のといいますか、12月頃から始まりますけれども、来年4月1日に入学する第一期生ですね、それを迎えるべく県下ずっと高校を回ったんです。すると校長、それから進路担当の先生が応対してくれましたけれど、やっぱり厚狭駅の近くで欲しかったですねと言われました。そのとおりなんですよ。

伊藤實委員長 まあ、今、決定したわけではないんで。これはまた議案で出ればまた委員会でも審査しますし、いろいろと委員会の中でも、いろいろ候補地についてはありました。どこがいい、悪いとかではなくて、やはりそういうことを一つ一つ協議をし、比較をしてね、やはりどこが将来的にいいのかと、目先の財源とか財政

的なことだけではなくて、先ほど市長の答弁の中では、市民への負担をということをしごく強調されますが、逆にこの波及効果ね、どこに建設することによって、どのように定住人口が増えるとかね、商売が活性化するとか、様々なところをやはり検証しながら、やはりどう持っていくかというところがしごく大事だと思いますので、この辺についてもですね、この委員会、若しくは、また今後薬学部に特化した委員会ができるかもしれませんが、やはり議会としてもですね、これまでのように執行部からの提案について、ああそうかというようではなくて、やはり一つ一つこの事業、将来も見据えてですね、しっかりとチェックをして、議論を重ねながら審査していく所存でございますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

石田清廉委員 今の委員長の意見に賛成でございます。そういうことも踏まえて、せっかく私どもはですね、会派で葛飾及び岐阜大学に視察に行ってますね、それなりのいろんな情報、勉強もしてきております。更に執行部のほうも、大田室長さんも岐阜大学に行かれて、立場は違えどいろんな角度でいろんないいものを発見して来られてるんじゃないかと思えます。そういうすり合わせの場がですね、あって新たなものが見えてくる部分があるし、問題解決につながるという意味もあって、是非ともそういうすり合わせの場を作っていただきたいと思えますがいかがでしょうか。

伊藤實委員長 そのことについては後ほど協議会のほうで、今後の進め方で触れるようにしておりますので、そのことも含めてですね、今後ですね、再々集中的に委員会を開くと思えます。それぞれの、やはり情報を共有しながらですね、このまちの活性化の手段として、この東京理科大の公立化ということを決めたわけですから、やはり将来禍根を残さないようなすばらしい、造って良かったなど、先ほど市長が言われましたように、それになるように実現に向けて、やはり双方がか

んかんがくがく議論を進めていかなければというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ほかによろしいですか。

中村博行委員 薬学部の設置がですね、1年遅れたということは、高校2年生が直接関わる問題ということで、早い時期にそういうふうに表明されたということも理解できるんですけども、大半ですね、言えば、全国的に多分29年度4月開学というふうな感覚でおられる方が多数いらっしゃると思うんですよ。そういった方々のために、もうですね、この延期した、あるいはもう次はこうですよというようなお知らせといいますか、そういったものはどういう形でされるというふうに思われておりますか。

白井市長 高校の進路担当とか、あるいは校長のほうからの愚痴とか不満は一切ありませんでした。ただ問題は、当の子供たちですね。赤崎のある女子高校生がですね、ちょうどそれに引っ掛かるんです。その親を知ってるもんですから、申し訳ありませんねというようなことを話したら、いや、あの子は最初薬学部を希望してたけど、こういう事情で来年は工学部に通いますと。そんな融通のつく子も居るんだなと思ひました。

伊藤實委員長 はい。それぞれまだあるかと思ひますが、先ほど冒頭に述べましたようにそれぞれ本日質疑したことについては、また資料請求等も含めて一つ一つ丁寧に審査をしていきたいと思ひます。その内容等についてもですね、できる限り市長にはですね、この委員会に出席をしていただきたいと思ひます。室長もいいんですが、やはり市長が、今回の問題は本当に大きな案件ですんで、その辺についてやはり市長に出席を願ひたいと思ひます。出席がかなわない場合は仕方ありませんけど、極力出席のほどよろしくお願ひしたいと思ひますが。

白井市長 分かりました。

伊藤實委員長 それでは一応本日の委員会は以上で終了いたします。後ほどちょっと協議会を45分から開催をしたいと思います。また執行部におきましては、またこの12月本会議終了後にですね、また委員会を考えておりますので、それまでにいろいろと今回の質疑事項への資料請求等を含めて要請したいと思います。どうぞよろしくお願いをいたします。以上で本日の委員会を閉会いたします。どうもお疲れさまでした。

午後3時33分閉会

平成27年(2015年)11月27日

山口東京理科大学公立化調査検討特別委員長 伊藤 實